

植物---特に樹木は、一年中同じ場所に存在し、その樹形（樹容）も大きくは変化しません。しかし、その姿は一年に何度も変化します。たとえばサクラは、春先に葉を出す前に一斉に花を咲かせ、その翌週には若葉の姿になります。その後実をつけ、秋には美しく紅葉、そして晩秋に葉を落とし「冬枯れ」の姿になります。これを何年も何十年も繰り返すのです。

常緑樹も例外ではありません。ほとんどの常緑樹は秋にはほとんど葉を落としますが、一度ついた葉が永久に枝に残るわけではありません。たとえばクスノキは、4月から5月に新しい「明るい黄緑の葉」を出し、同時に古い「濃い緑色の葉」を落とします。クスノキの落葉の時期は「春」なのです。

イチョウは他の落葉広葉樹に比べて少し葉をつけるのが遅く、4月中旬になってやっと新しい葉を出します。枝から顔を出した小さな葉は、今の時期にしか見られない姿です。小さくてもちゃんとイチョウの葉の形をしているので、小さな子どもでも気づきます。よくこのイチョウの木のそばを通る子ども園の年長さんの子どもが、「あ、イチョウの葉の赤ちゃん！」と言っていました。すばらしい観察眼だと思いました。

(2025 年 4 月中旬／文京区お茶の水女子大学構内)

